

随想

「江ノ電」との触れ合い〈後編〉

古橋昭子 (青山学院大学名誉教授・理学博士・湘南日独協会会員)



湘南学園を辞めてから数年は当時の理数科教員不足のせいであちこちの公立中学に引っぱり出されていたが、結婚したとは云え子供もできなかったので猛勉強して青山学院大学理工学部

の教員となった。在外研究や国際学会等を経て来日する外国の方々をお世話することになり、江ノ電を利用する機会も増した。

初めて高架ホームの藤沢駅から江ノ電に乗ったのは、

初めは、き、バスで鎌倉駅へ。八幡

ブラジルのサンパウロ大学の教授が国際学会で来日した間に、鎌倉を案内した時、ピッカピカの4両編成の江ノ電を見たときはワクワクした。売店で江ノ電絵柄のペットボトル用の袋と水を買って差し上げた。嬉しそうに国に持って帰るとのことであった。

江ノ電を長谷で降りながら、長谷観音、大仏と歩くと聞いてビックリした。

だ、いふ前になるが湘南日

宮のほか、お土産屋さん等をのぞいた後、再び江ノ電で海の景観を楽しみながら戻った。アリンチのツーソンに居た頃お世話になった方が小さいお子さんと二人とおいでになった時は、私の車でご案内した。江ノ電の方が良かったかなど今でも思うが、その後お見えになった方も殆ど車でご案内してしまった。

と、ここで現在のピカピカの4両編成の江ノ電からは想像もつかないが、昭和45年(1929)~1980) 当時は「タンコロ」と云って1両で走っていたという。藤沢から鎌倉まで開通したのは明治43年のことだ。美しい海辺を体をゆすりながらのんびり走っていたのであろう。最近「タンコロまつり」がある

独協会でドイツからのお客様との懇親会を稲村が崎のレストランで行ったことがあった。七里が浜には以前、七里が浜ホテルがあり、その下の国道134号線には料金所があったが、やがて料金所は無くなり、その跡地が広く残されたので暴走族の集合場所になって近隣は迷惑したそうだが、今はどうであろうか。

次の駅が稲村ヶ崎で、このあたりの海辺の眺めは絶景だ。ハワイなんかに行く必要がない程海は美しく、波もサーフィンに良いのではない。ドイツのお客様との懇親会から数年後に夫と二人で稲村が崎のレストランに行った。昼食はバイキングになっていたが料理も勿論作ってくれた。蟹料理は本当に美味しかった。小学生の頃に習った唱歌「七里が浜の磯つたい稲村が崎 名將の剣(つるぎ) 投げし

古戦場

を思い出しながら、飽きるほどのない相模湾を築んだ。帰りには駅前の魚屋さんに新鮮なさんまを買って再び江ノ電に乗って藤沢の高架駅に戻った。

湘南地区には湘南日独協会があり、協会主催のドイツ語講座が開かれている。教室は藤沢カトリック教会、3階建ての2階にあり、

江ノ電が上り下りするのが目が合ったり見え、乗客と目が合ったりしたことがある。

今の江ノ電では藤沢を出て下ったらすぐ石上駅で、石上駅は要らないのではな

いかと思っていたが、近くに救急指定病院があって、反対が多く、残されたのだという。

私の江ノ電への想いは古くなり、そして尽きない。「江ノ電」にはこれからもずっと元気で走り続けてもらいたい。